



ライティングトーク「学生を対象としたILL費用支援の取り組み」

野村, 明日香

(Citation)

オンラインフォーラム『ILL/DD サービス 2.0 へ向けて』（令和 4 年度国立大学図書館協会近畿地区協会助成事業）

(Issue Date)

2023-01-27

(Resource Type)

conference object

(Version)

Version of Record

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/0100478598>



令和4年度国立大学図書館協会近畿地区協会助成事業 フォーラム「ILL/DDサービス2.0へ向けて」

事例報告（ライトニングトーク） 学生を対象としたILL費用支援の取り組み

2023.1.27

滋賀大学附属図書館教育学部分館

野村明日香

tosyo@edu.shiga-u.ac.jp



滋賀大学の学部構成

彦根キャンパス (附属図書館本館)	経済学部・経済学研究科 データサイエンス学部・データサイエンス研究科
大津キャンパス (附属図書館教育学部分館)	教育学部・教育学研究科(教職大学院)・特別支援教育専攻科

→各キャンパスの図書館で2014年秋から学生ILL料金の費用支援を開始
「文献取り寄せサービスの費用支援プログラム」

サービス開始の背景

目的

- 学生サービスの充実(卒論・修論で活用してほしい)

導入時に説明した点

- 学生:自己負担なく(現金を用意する手間もなく)、スムーズに文献入手を行える
- 教員:学生の負担を気にせず、より充実した指導が行える
- 図書館:利用の増加が見込める
- 事務部門(経理):現金取扱業務の削減が見込める

文献取り寄せサービスの費用支援プログラム (概要)

- 開始時期
2014年10月から両キャンパス図書館で試行→翌年度に本格実施
- 財源
図書館資料費
- 費用支援の対象
公費で支払い可能な機関への依頼(NII料金相殺／NDL／その他)
- サービス対象期間
4月～1月(2・3月は私費)

教育学部分館の実施内容（件数による制限）

年度		文献複写	図書借用
2014(試行)	10月～1月	無料(件数制限なし)	無料(件数制限なし)
2015	4月～1月(以下の期間を除く)	無料(1か月1人5件以内)	往路のみ学生負担(1か月1人3冊以内)
	9/28～12/17	無料(1か月1人10件以内)	無料(1か月1人3冊以内)
2016～2017	4月～9月	無料(1か月1人5件以内)	無料(1か月1人2冊以内)
	10月～1月	無料(1か月1人10件以内)	無料(1か月1人4冊以内)
2018～2022	4月～9月	無料(1か月1人5件以内)	往路のみ学生負担(1か月1人2冊以内)
	10月～1月	無料(1か月1人10件以内)	往路のみ学生負担(1か月1人4冊以内)

※試行時より大津キャンパス全学生を対象として実施

※2018年度に図書借用において往路のみ学生負担としたのは、2017年度の実績額が予算額に迫った一方で、翌年度の図書館資料費の減額と送料の値上がりが見込まれたため

実績（教育学部分館）

試行の結果（2014年10月～2015年1月）

文献複写：申込件数 107件→511件（前年度同時期比）

図書借用：申込件数 12件→154件（前年度同時期比）

件数制限を設けて本格実施（2015年～）

文献複写：申込件数 概ね1000件前後で推移
→2018・2019年度に減少傾向
→2020年度より極端に減少

図書借用：申込件数 概ね200件前後で推移
→2018年度に片道送料を学生負担としたことで減少
→2020年度より極端に減少

【参考】本館の実施内容（金額・学年による制限）

年度	対象者	年間上限額
2014/10～2017	彦根キャンパス3・4年、院生	学部生2,000円、院生5,000円
2018～2020	彦根キャンパス3・4年、院生	学部生3,000円、院生5,000円
2021～2022	彦根キャンパス全学生	学部生3,000円、院生5,000円

※年間上限額は文献複写・図書借用の両方を含む

感じていること

- ILLの無償化は、学生の文献入手における心理的ハードルを下げる
ただ、制度として定着しているので、学生は「無料」であることを重視する
- 文献取り寄せサービスの費用支援プログラムは、学生には図書館利用のきっかけになり、図書館側では他のサービスの充実に展開する可能性もある(講習会、選書、教員とのつながり)